

令和3年度（2021年度）

熊本県立八代中学校

シラバス（全体）



目 次

国語	2
社会	9
数学	15
理科	21
音楽	30
美術	33
保健体育	36
技術分野	42
家庭分野	48
英語	54

教 科	国語	科 目	国語	学 年	1	類 型	
単位数	4	教科書	東京書籍 新しい国語 1				
副教材	増補版国語便覧熊本県版、基礎の学習 1、常用漢字ダブルクリア、中 1 徹底演習テキスト国語						

学習目標	・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにする。 ・国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。
------	--

学 期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	風の五線譜	・詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。	☐ ☐ ☐
	話し方はどうかな	・話し方について知り、声に出して文章を読む。	☐ ☐ ☐
	詩の心－発見の喜び	・言葉の意味を的確に捉え、詩を音読して読み味わう。	☐ ☐ ☐
	描写や表現技法を用いる	・詩を鑑賞して、自分のものの見方を広げる。	☐ ☐ ☐
	小さな発見を詩にしよう	・言葉を選び、表現を工夫して、詩を仕上げる。	☐ ☐ ☐
	音声の働きや仕組み	・音声の働きや仕組みについて理解する。	☐ ☐ ☐
	文法とは・言葉の単位	・言葉の単位について学ぶ。	☐ ☐ ☐
	活字と書き文字・画数・筆順	・活字と下記文字の違い、画数、筆順について理解する。	☐ ☐ ☐
	飛べ かもめ	・場面の様子や登場人物の思いに注意して、読み味わう。	☐ ☐ ☐
	さんちき	・想像を膨らませ、ものの見方を広げる。	☐ ☐ ☐
	相手の話を受け止め引き出す	・相手の考えをよりよく理解するために的確な質問を考える。	☐ ☐ ☐
	話を聞いて質問しよう	・話の内容が深まるような、よりよい質問をする。	
	接続する語句・指示する語句	・つなぐ言葉や指し示す言葉の働きについて理解する。	☐ ☐ ☐
	オオカミを見る目	・段落の役割や、段落どうしの関係に着目して文章の構成を捉え、内容を読み取る。	☐ ☐ ☐
2 学 期	調べて分かったことを伝えよう	・普段の生活の中からテーマを決め、調べた事実や自分の考えが分かるように、分かりやすい構成でレポートを書く。	☐ ☐ ☐
	文の成分・連文節	・文の成分や、連文節、文節の関係について理解する。	☐ ☐ ☐
	音読み・訓読み	・漢字の音読みと訓読みについて理解する。	☐ ☐ ☐
	碑	・平和について学ぶ。	☐ ☐ ☐
	本で世界を広げよう	・読書に親しみ、さまざまなものの見方、考え方にふれる。	☐ ☐ ☐
	図書館で調べよう	・図書館を利用し、情報の検索のしかたを学ぶ。	☐ ☐ ☐
	事実と考えを区別する	・事実と考えを区別したり、考えの根拠に注目したりする。	☐ ☐ ☐
	私のタンポポ研究	・事実と筆者の考えとを読み分けながら文章の展開を捉える。	☐ ☐ ☐
	根拠を挙げて考えを述べる	・筆者のものの見方、考え方について、感想や考えを持つ。	☐ ☐ ☐
	根拠を明確にして書こうー	・説得力のある根拠を考え、根拠を明確に示して意見を書く。	☐ ☐ ☐
	「写真」の意見文	・情報を整理し、順序立てて分かりやすく説明する。	☐ ☐ ☐
	中心を明確にして書こうー	・具体例を取り入れ、順序立てて話を組み立てる。	☐ ☐ ☐
	「似ている言葉」スピーチ		
	方言と共通語	・方言を通して身近な言語環境に興味をもつ。	☐ ☐ ☐
	漢字の部首	・漢字の部首やその意味について理解する。	☐ ☐ ☐
	月夜の浜辺	・詩から情景や心情を捉え、リズムを感じながら朗読する。	☐ ☐ ☐
	移り行く浦島太郎の物語	・古典にさまざまな種類の作品があることを知り、興味や関心を持つ。	☐ ☐ ☐
	伊曾保物語		
	竹取物語	・歴史的仮名遣いに注意して音読し、古文の読み方に慣れる。	☐ ☐ ☐

	矛盾	・古典の作品に描かれた人間の心のありようについて考える。 ・訓読に必要な決まりを知り、漢文特有のリズムを味わう。 ・必要な情報を選び出し、分かりやすい構成でまとめる。 ・語の多様な意味や、文脈の働き、多義語について理解する。 ・品詞の 10 種類について知る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	案内や報告の文章を書こう 語の意味と文脈・多義語 単語の分類 少年の日の思い出 視点を変えて心情を描こう	・人物や情景の描写に着目して、主題を考える。 ・視点を決め、人物の心情などを描き出すためにふさわしい言葉を選んで文章を練る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	名詞	・名詞について学ぶ。	☐ ☐ ☐
	他教科で学ぶ漢字	・他教科で学ぶ言葉に使われている漢字を学ぶ。	☐ ☐ ☐
	風を受けて走れ	・福祉や共生について学ぶ。	☐ ☐ ☐
	本で世界を広げよう	・読書に親しみ、さまざまなものの見方、考え方にふれる。	☐ ☐ ☐
	本のポップを作ろう	・おすすめの本のポップを作り、その本の魅力を伝える。	☐ ☐ ☐
3 学 期	ニュースの見方を考えよう 分類する・比較する	・情報への接し方と情報の用い方を身につける。 ・共通点と相違点に着目し、分類・比較する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	話し合いで理解を深めよう 心に残る出来事を表現しよう	・お互いの体験や考えを出し合って整理する。 ・日常生活の中から題材を決め、出来事と思いがよく伝わるように、表現を工夫して随筆を書く。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	連体詞・副詞・接続詞・感動詞	・単語の類別について理解する。	☐ ☐ ☐
	漢字の成り立ち	・漢字の成り立ちについて理解する。	☐ ☐ ☐
	わたしの中にも	・詩に表れているものの見方を捉え、自分の考え方を広げる。	☐ ☐ ☐
	トロッコ	・情景描写などの表現の効果について考える。	☐ ☐ ☐
	名作を読もう	・名作に触れ、豊かな心を育む。	☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	【授業の進め方やポイント】 ○教科書をよく読んで内容の理解に努める。 ○音読に積極的に取り組む。 ○授業ノートはただ板書を写すだけではなく、疑問や考えなどを積極的に記入する。 ○配られたプリントをフラットファイルに綴じ、整理すると共に自分の考えを記入する。 ○文章の内容を自分の問題として考え、自分の意見や考えを持つようにする。自分の考えを述べる発言で表現力を伸ばす。 ○感想や疑問をしっかり出し合い、他者の発言に耳を傾ける。そして、自分との共通点や相違点を理解し、考えを深める。
	【家庭学習の進め方やポイント】 ○新しい単元に入るときに、新出漢字と語句の確認をする。（「基礎の学習 1」や辞書の活用） ○授業の後に授業ノートやプリントを見直すなどの復習をする。（「基礎の学習 1」の活用） ○出された課題や宿題を必ず仕上げる。 ○漢字テストで満点が取れるように、毎日の漢字練習を続ける。 ○習った漢字や語句は何度も練習し、定着させる。 ○自分の使える言葉や漢字を増やすために、ふだんから沢山の文章（新聞等）を読み、分からない言葉や漢字は調べる習慣を身につける。積極的に辞書を引く。

評価方法	【知識・技能】 定期テスト、小テスト、授業時の課題 【思考・判断・表現】 定期テスト、小テスト、授業時の課題 【主体的に取り組む態度】 授業中の様子、漢字テスト、課題の提出状況、定期テスト、発表
------	--

教 科	国語	科 目	国語	学 年	2	類 型	
単位数	4	教科書	東京書籍 新しい国語 2				
副教材	増補版国語便覧熊本県版、基礎の学習 2、常用漢字ダブルクリア、中 2 徹底演習テキスト国語						

学習目標	・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにする。 ・国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	未来へ	・さまざまな表現に注意して詩の意味を捉え、工夫して音読する。	☐ ☐ ☐
	手紙の効用	・キーワードの意味に注意して、筆者の考えを捉える。	☐ ☐ ☐
	短歌を楽しむ	・随筆を手がかりに短歌を読み味わう。	☐ ☐ ☐
	短歌五首	・短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	☐ ☐ ☐
	短歌のリズムで表現しよう	・自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。	☐ ☐ ☐
	話し言葉と書き言葉	・話し言葉と書き言葉の特徴について理解する。	☐ ☐ ☐
	形の似た漢字	・形の似た漢字に注意する。	☐ ☐ ☐
	字のない葉書	・登場人物の言葉や行動の意味に着目して、作品を読み味わう。	☐ ☐ ☐
	人物像を捉える	・登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。	☐ ☐ ☐
	辞書に描かれたもの	・人物の言葉や行動・態度から、人物像や考え方を読み取る。	☐ ☐ ☐
	相手の立場を踏まえ、考えを深める	・相手の立場に立って想像し、話を丁寧に受け止め、多様な考えに触れて自分の考えを深めたり新たな発想を生み出したりする。	☐ ☐ ☐
	考えを比べながら聞こう	・相手の考えとその根拠に注意して話を聞き、自分の考えと比べる。	☐ ☐ ☐
	敬語	・敬語の種類や使い方について理解する。	☐ ☐ ☐
	他教科で習う漢字(1)	・他教科で学習する言葉で使われる漢字を学ぶ。	☐ ☐ ☐
	情報を図や表に整理する	・必要な情報を整理し複雑な情報は項目を立て表を作ってまとめる。	☐ ☐ ☐
	ハトはなぜ首を振って歩くのか	・文章と図表を結びつけて読み、図表の役割を考える。	☐ ☐ ☐
	郷土の良さを伝えよう	・身近な地域から題材を決め、読み手を意識しながら表現の効果を確かめて文章を推敲する。	☐ ☐ ☐
2 学期	用言の活用	・用言の活用の種類や、活用形について理解する。	☐ ☐ ☐
	漢字の意味	・漢字の意味を理解し、漢字を使いこなす。	☐ ☐ ☐
	卒業ホームラン	・登場人物の言動の意味に着目し小説を鑑賞する。	☐ ☐ ☐
	本で世界を広げよう	・成長をテーマにした本を読み、生き方について考える。	☐ ☐ ☐
	ビブリオバトルをしよう	・ビブリオバトルを行い、読書への興味関心を高める。	
	黄金の扇風機	・二つの文章の論展開を比較し、それぞれの特徴をつかむ。	☐ ☐ ☐
	サハラ砂漠の茶会	・自分の知識や体験と結びつけて、自分の考えを書く。	☐ ☐ ☐
	論証の説得力を見極める	・筆者の主張と根拠との整合性について判断し、説得力のある文章とはどのようなものか学ぶ。	☐ ☐ ☐
	根拠を吟味して書こうー「地図」の意見文	・文章構成について工夫し、分かりやすく説得力のある意見文を書く。	☐ ☐ ☐
	説得力のある提案をしよう	・聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる。	☐ ☐ ☐
	助詞	・助詞の種類や働きについて理解する。	☐ ☐ ☐
	同訓異字	・同訓異字を理解し、適切に使い分ける。	☐ ☐ ☐
	落葉松	・詩に描かれた情景や心情を捉えリズムを感じ取りながら朗読す	☐ ☐ ☐

	枕草子・徒然草 平家物語 漢詩 依頼文やお礼状を書こう 助動詞 他教科で学ぶ漢字(2) 走れメロス 人物を描写しよう 類義語・対義語 鯉節—世界に誇る伝統食 本で世界を広げよう 調べて一枚レポートにまとめよう	る。 ・筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。 ・状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考える。 ・表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。 ・読み手を意識して、適切な表現になるように文章を推敲する。 ・助動詞の種類や意味について理解する。 ・他教科で学習する言葉で使われる漢字を学ぶ。 ・人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。 ・人物の言動の意味に注意して、人物像を捉える。 ・人物像が伝わるように、人物の言葉や行動・態度などを描写する。 ・類義語や対義語について理解する。 ・日本の食文化について学ぶ。 ・日本文化についての多様な本を読み、見聞を広める。 ・日本文化について調べたことを一枚レポートにまとめる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	「正しい」言葉は信じられるか 質問する・反論する 話し合いで問題を検討しよう —リンクマップによる話し合い 想像を誘うように表現する いきいきと描き出そう 同音異義語 わたしが一番きれいだったとき 坊っちゃん 名作を読もう	・事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いについて考える。 ・問題の争点を捉えたり、的確な反論を考えたりする。 ・さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合う。 ・描き方を工夫して、想像を誘う表現をする。 ・情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。 ・同音異義語を使い分ける。 ・心情が読み取れる言葉に注意して詩を読む。 ・文学作品を読み、登場人物の考え方や人物像について考える。 ・さまざまな文学作品を読み、豊かな心を育む。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	【授業の進め方やポイント】 ○教科書をよく読んで内容の理解に努める。 ○音読に積極的に取り組む。 ○授業ノートはただ板書を写すだけではなく、疑問や考えなどを積極的に記入する。 ○配られたプリントをフラットファイルに綴じ、整理すると共に自分の考えを記入する。 ○文章の内容を自分の問題として考え、自分の意見や考えを持つようにする。自分の考えを述べる発言で表現力を伸ばす。 ○感想や疑問をしっかりと出し合い、他者の発言に耳を傾ける。そして、自分との共通点や相違点を理解し、考えを深める。 【家庭学習の進め方やポイント】 ○新しい単元の前に、新出漢字と語句の確認をする。（「基礎の学習2」の利用、辞書の活用） ○授業の後に授業ノートやプリントを見直すなどの復習をする。（「基礎の学習2」の活用） ○出された課題や宿題を必ず仕上げる。 ○漢字テストで満点が取れるように、毎日の漢字練習を継続する。 ○習った漢字や語句を何度も練習し、定着させる。 ○自分の使える言葉や漢字を増やすために、ふだんから沢山の文章（新聞等）を読み、分からない言葉や漢字を調べる習慣を身につける。積極的に辞書を引く。
------	---

評価方法	【知識・技能】定期テスト、小テスト、授業時の課題 【思考・判断・表現】定期テスト、小テスト、授業時の課題 【主体的に取り組む態度】授業中の様子、漢字テスト、課題の提出状況、定期テスト、発表
------	---

教 科	国語	科 目	国語	学 年	3	類 型	
単位数	3	教科書	東京書籍 新しい国語 3				
副教材	増補版国語便覧熊本県版、基礎の学習 3、常用漢字ダブルクリア、中3徹底演習テキスト国語						

学習目標	・国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 ・思考力や創造力を養い言語感覚を豊かにする。 ・国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価		
			A	B	C
1 学 期	生命は 二つのアザミ 俳句の読み方、味わい方 俳句を作って句会を開こう	・詩の意味や効果的な表現を捉え、読み方を工夫して音読する。 ・表現の工夫に注意して、筆者の考えを捉える。 ・表現の工夫に着目して、俳句を読み味わう。 ・俳句のよさを評価してまとめる。 ・俳句を作って互いに読み合い、作品のよさを評価する。	☐	☐	☐
	和語・漢語・外来語 間違えやすい敬語 形	・和語・漢語・外来語の特徴について理解する。 ・間違えやすい敬語に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。 ・場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、作品を読み味わう。	☐	☐	☐
	百科事典少女 評価しながら聞こう	・場面の展開や表現の仕方に注目し、作品を評価する。 ・様々な観点から評価しながら聞き、自分の考えや表現に生かす。	☐	☐	☐
	連語・慣用句 熟語の構成・熟字訓 絶滅の意味	・連語や慣用句について理解する。 ・熟語の構成や熟字訓について理解する。 ・論理の進め方に着目して、筆者の主張を捉える。 ・人間社会と自然との関わりについて考え、自分の意見を持つ。	☐	☐	☐
	論理的に読む 素材を生かして表現する 編集して伝えよう 「環境」の新聞 四字熟語 送り仮名	・文と文、段落と段落などの関係を考えながら、文章を論理的に読む。 ・体験と知識を、表現の素材として生かす。 ・知識や体験をもとに、構成を工夫し、内容を膨らませて文章を書く。 ・書いた文章を読み返し、推敲して誌面を仕上げる。 ・四字熟語の構成について理解し、さまざまな四字熟語を知る。 ・送り仮名について理解する。	☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
2 学 期	幸福について 観察・分析して論じよう「ポ スター」の批評文	・文章を読み比べて、論の進め方や表現について評価する。 ・文章を読み比べて、文章の内容について自分の考えを持つ。 ・比較することを通して、物事を深く理解する。 ・批評の対象について観察・分析したり、比較したりして、自分なりの判断を下す。 ・論の進め方を工夫し、資料を参考にしたり引用したりして、説得力のある批評文を書く。 ・書いた批評文を読み合って評価し、ものの見方や考え方を深める。	☐	☐	☐
	目的や相手に応じて説明する 場面に応じて話そう	・目的や相手に応じて必要な情報を判断し、分かりやすく説明する。 ・体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を考える。	☐	☐	☐
			☐	☐	☐
			☐	☐	☐
	曖昧な文・分かりづらい文		☐	☐	☐

	送り仮名 初恋 万葉・古今・新古今	- 敬語を適切に使い、場の状況や相手に応じた話し方をする。 - 曖昧な文や分かりづらい文になる原因を理解し、言葉遣いの感覚を磨く。 - 送り仮名の付け方について理解する。 - 表現の特徴を捉え、リズムを感じ取りながら朗読する。 - 和歌が詠まれた背景や作者の心情を想像しながら、和歌の世界に親しむ。 - 和歌の意味や使われている技法に注意して、鑑賞文をまとめる。 - 当時の状況や作者の思いを捉え、古典の世界に親しむ。 - 構成や表現の特徴とその効果について考える。 - 古人の言葉を読み味わい、自分の文章に生かす。 - 古人の言葉を引用し、自分の考えを書く。 - 言葉の変化について理解する。 - 文法的な性質の異なる後の見分け方を通して、文法の復習をする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	おくのほそ道 論語 言葉の移り変わり 文法のまとめ 故郷 紛らわしい漢字 何のために「働く」のか	- 場面を展開と人間関係の変化を捉えて、作品を読み深める。 - 作品を読んで、社会の中で生きる人間について考え、自分の意見を持つ。 - 人物の特徴や、人物どうしの関係の変化を捉える。 - 形や音の似た、紛らわしい漢字に注意する。 - 読んだ本を振り返り、これからの読書生活への展望を持つ。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	いつものように新聞が届いた 合意形成を目指す話し合い 話し合いで意見をまとめよう	- 情報の意義とメディアの役割について考えを深める。 - 対立する意見について、合意の形成を目指して考えをまとめる。 - 話し合いが効果的に展開するように、進行の仕方を工夫する。 - 問題の解決に向けて、お互いの考えを生かし合う。 - 中学校生活を振り返ったり将来を展望したりして、思いを手紙にまとめる。 - 下書きした手紙を読み返し、文章を整えて清書する。 - 読み間違えたり書き間違えたりしやすい言葉に注意する。 - 効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。 - 詩に描かれた生と死について考え、感想を持つ。 - 文学作品を読み、人間や社会について考える。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	今の思いをまとめよう 間違えやすい言葉 レモン哀歌 生ましめんかな 最後の一句		☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	【授業の進め方やポイント】 ○教科書をよく読んで内容の理解に努める。○音読に積極的に取り組む。○授業ノートはただ板書を写すだけではなく、疑問や考えなどを積極的に記入する。○配られたプリントはフラットファイルに綴じ、整理すると共に自分の考えを記入する。○文章の内容を自分の問題として考え、自分の意見や考えを持つようにする。自分の考えを述べる発言で表現力を伸ばす。○感想や疑問をしっかり出し合い、他者の発言に耳を傾ける。そして、自分との共通点や相違点を理解し、考えを深める。 【家庭学習の進め方やポイント】 ○新しい単元の前に、新出漢字と語句の確認をする。（「基礎の学習3」の利用、辞書の活用）○授業の後は授業ノートやプリントを見直すなどの復習をする。（「基礎の学習3」の活用）○出された課題や宿題は必ずする。○漢字テストで満点が取れるように、毎日の漢字練習を続ける。○習った漢字や語句は何度も練習し、定着させる。○自分の使える言葉や漢字を増やすために、ふだんから沢山の文章（新聞等）を読み、分からない言葉や漢字は調べる習慣を身につける。辞書を引くことをおっくうに考えないようにする。

評価方法	【知識・技能】 定期テスト、小テスト、授業時の課題 【思考・判断・表現】 定期テスト、小テスト、授業時の課題 【主体的に取り組む態度】 授業中の様子、漢字テスト、課題の提出状況、定期テスト、発表
------	--

教 科	社会	科 目	社会	学 年	1	類 型	
単位数	3 単位	教科書	新しい社会 歴史（東京書籍） 中学生の地理（帝国書院）中学校社会科地図（帝国書院）				
副教材	歴史資料集（新学社） 社会の自主学習 歴史 1（新学社） 社会の自主学習 地理世界（新学社） 中学実力練成テキスト社会全						

学習目標	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達記評価 A B C
1 学 期	【地理的分野】 第1部 世界と日本の地域構成	・地球儀や世界地図を活用し、緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国の名称と位置、地域区分について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2部 世界の様々な地域	・大まかな世界地図が描けるようになる。	☐ ☐ ☐
	第1章 人々の生活と環境	・世界各地における人々の生活の様子について理解する。	☐ ☐ ☐
	【歴史的分野】	・歴史を学ぶ意義を高め、年代の表し方や時代区分について理解する。	☐ ☐ ☐
	第1章 歴史へのとびら	・世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりと生活の変化について理解する。	☐ ☐ ☐
	第2章 古代までの日本	・大和朝廷による統一と東アジアとのかかわりについて理解する。	☐ ☐ ☐
	1 世界の古代文明と宗教のおこり	・律令国家の確立にいたるまでの過程について、聖徳太子の政治、大化の改新などを通して理解する。	☐ ☐ ☐
	2 日本列島の誕生と大陸との交流	・摂関政治や国風文化の発達について理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	3 古代国家の歩みと東アジア世界		☐ ☐ ☐
	【地理的分野】 第2章 世界の諸地域	・人口が急増し、多様な民族・文化が存在することを通してアジアの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	1 アジア州	・EUの発展と地域間格差を通してヨーロッパの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	2 ヨーロッパ州	・モノカルチャー経済下における人々の生活を通してアフリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	3 アフリカ州	・大規模農業と工業の発展を通して北アメリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	4 北アメリカ州	・武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりがあったことについて理解する。	☐ ☐ ☐
	【歴史的分野】 第3章 中世の日本	・元寇、南北朝の動乱、応仁の乱などを通して、幕府支配の動揺を捉え、各地に戦乱が広まる中で地方武士が力を強めたことを理解する。	☐ ☐ ☐
	1 武士の政権の成立		
3 学 期	2 ユーラシアの動きと武士の政治の展開		
	【地理的分野】 第2章 世界の諸地域	・森林破壊と環境保全を通して南アメリカの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	5 南アメリカ州	・アジア諸国との結びつきを通してオセアニアの地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	6 オセアニア州	・世界の地理的認識を深め、世界の様々な地域または国	☐ ☐ ☐
3 学 期	第4章 世界のさまざま		

	な地域の調査 【歴史的分野】 第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2 江戸幕府の成立と対外政策	の調査を行う際の視点や方法を身に付ける。 ・戦国の動乱、ヨーロッパ人の来航とその背景について新航路の開拓や宗教改革とのかかわりを理解する。 ・織田信長と豊臣秀吉の統一事業について理解する。 ・江戸幕府の成立と大名統制について、幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付く。 ・鎖国下の対外関係について、長崎、対馬、薩摩、蝦夷地を通じてオランダ、中国、朝鮮、琉球王国、アイヌ民族との交易がおこなわれたことを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
--	--	--	--

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	日頃から新聞やニュースを見ておいてください。授業はプリントを中心に授業を進めていきます。ノートに貼って整理してください。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。副教材の問題集を週末の宿題として出します。
------	---

評価方法	①知識・技能…学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。年表や歴史、地図など様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択し活用することができる。 ②思考・判断・表現…教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③主体的に学習に取り組む態度…学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	社会	科 目	社会	学 年	2	類 型	
単位数	3単位	教科書	中学社会 歴史（教育出版） 中学生の地理（帝国書院）中学校社会科地図（帝国書院）				
副教材	歴史資料集（新学社） 社会の自主学習歴史2・3（新学社） ウィニング歴史Ⅱ 社会の自主学習地理日本（新学社） ウィニング地理Ⅱ						

学習目標	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達記評価 A B C
1 学 期	【歴史的分野】 第4章 近世の日本と世界	・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを通して町人文化が都市を中心に形成されたことや各地方の生活文化が生まれたことを理解する。	☐ ☐ ☐
	4 経済の成長と幕政の改革	・享保の改革、寛政の改革の内容と幕府政治の行き詰まりについて理解する。	☐ ☐ ☐
	第5章 近代の幕開け	・欧米諸国における市民革命や産業革命、アジア諸国の動きなどを通して欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解する。	☐ ☐ ☐
	1 近代世界の確立とアジア		
	【地理的分野】 第2編 日本のさまざまな地域	・地球儀や地図を活用し、我が国の国土の位置、世界各地との時差、領域の特色と変化、時代区分などを通して日本の地域構成について理解する。	☐ ☐ ☐
	第1章 日本の地域構成 第2章 世界から見た日本のすがた	・世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	【歴史的分野】 第5章 近代の幕開け	・欧米諸国のアジア進出と関連づけて日本の開国とその影響について考察する。	☐ ☐ ☐
	2 開国と幕府政治の終わり	・明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。	☐ ☐ ☐
	第6章 近代の日本と世界	・自由民権運動、大日本帝国憲法の制定を通して立憲制の国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。	☐ ☐ ☐
	1 明治維新と立憲国家への歩み		
	【地理的分野】 第3章 日本の諸地域	・九州地方について、環境問題や環境保全を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する	☐ ☐ ☐
	1 九州地方	・中国・四国地方について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	2 中国・四国地方	・近畿地方について、歴史的背景を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	3 近畿地方	・中部地方について、産業を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	4 中部地方	・関東地方について、他地域との結びつきを中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	5 関東地方	・東北地方について、生活・文化を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	6 東北地方		

3 学 期	【歴史的分野】	・大陸と我が国との関係に着目して日清・日露戦争の背景やその後の影響などを理解する。	☐ ☐ ☐
	第6章 近代の日本と世界	・我が国でも産業革命がおこり近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解する。	☐ ☐ ☐
	2 激動する東アジアと日清・日露戦争		
	3 近代の産業と文化の発展		
	【地理的分野】	・北海道地方について、自然環境を中核とした考察の仕方をもとに地域的特色を理解する。	☐ ☐ ☐
	第3章 日本の諸地域	・身近な地域の調査について、地域的特色や地域の課題とともに、身近な地域の調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方や発表の方法を理解する。	☐ ☐ ☐
	7 北海道地方		
	第4章 身近な地域の調査		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	日頃から新聞やニュースを見ておいてください。授業はプリントを中心に授業を進めていきます。ノートに貼って整理してください。板書を移すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。副教材の問題集を週末の宿題として出します。
------	---

評価方法	①知識・技能…学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。年表や歴史、地図など様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択し活用することができる。 ②思考・判断・表現…教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③主体的に学習に取り組む態度…学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	社会	科 目	社会	学 年	3	類 型	
単位数	4 単位	教科書	中学社会 歴史（教育出版） 新しい社会 公民（東京書籍）				
副教材	みつけよう？と！歴史資料（とうほう） 新しい公民（浜島書店） 社会の自主学習 2・3（新学社） 中学実力練成テキスト社会全						

学習目標	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達記評価 A B C
1 学 期	【歴史的分野】 第7章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と民族独立の動き 2 大正デモクラシー 3 恐慌から戦争へ 4 第二次世界大戦と日本の敗戦 第8章 現代の日本と世界 1 日本の民主化と冷戦 2 世界の多極化と日本 3 冷戦の終結とこれからの日本	・第一次世界大戦の背景や戦いの様子、大戦後の世界の動きについて関連づけながら理解する。 ・大正時代の特色について、政治・社会・文化を関連づけながら理解する。 ・第二次世界大戦を引き起こした要因について、世界恐慌による世界経済の悪化と各国の社会の混乱、それにもなう政治体制の変化を関連づけながら理解する。 ・第二次世界大戦のあらましについて、日本と世界の動きを関連づけながら理解する。 ・世界の動きのなかで新しい日本の建設が進められたことを理解する。 ・1960～70年代の世界と日本の動きについてとらえ、我が国の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。 ・冷戦終結後の世界や日本の動きと関連づけながら、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことや、環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【公民的分野】 第1章 現代社会と私たち 1 現代社会の特色と私たち 2 私たちの生活と文化	・現代日本の特色としてグローバル化、情報化、少子高齢化などがあることを理解する。 ・日本と世界との結びつきが強まる中で、情報化の進展が果たしている役割を理解し、自分たちが情報を伝え合うことや、世界とつながることの意味を考察する。 ・日本の科学技術の発展と、社会の変化や自分たちの暮らしとの関わりについて理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【公民的分野】 第1章 私たちの暮らしと現代社会 3 現代社会の見方や考え方 第2章 個人の尊重と日本国憲法 1 人権と日本国憲法 2 人権と共生社会	・人間は社会的な存在であり、よりよい社会生活を営んでいくためにはきまりや取り決めが必要であること理解する。 ・立憲主義の憲法が「人権の保障」と「権力の分立」の二つの内容で構成されていることや、「法の構成」図の内容を正しく理解する。 ・人間の尊重についての考え方、法の意義と法に基づく政治の大切さ、日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原理としていること、天皇の	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

	3 これからの人権保障	地位と天皇の国事に関する行為について理解する。 ・人間尊重の考え方を基本的人権を中心に深め、法の意義と法に基づく政治の大切さについて理解する。 ・国会は、国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることや、内閣については、日本が議員内閣制を採用していることについて理解する。 ・法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていることを理解する。 ・地方自治は、住民参加による住民自治が基本であることを理解する。 ・経済活動の意義が人間の生活の向上にあり、経済は生活のための手段にほかならないことを理解する。 ・生産は企業を中心に行われていること金融には家計の貯蓄などを企業の生産活動や人々の生活資金などとして円滑に循環させるはたらきがあることを理解する。 ・経済の成長と安定の意味や経済の安定のために国や中央銀行が行っている経済政策について理解する。	☐ ☐ ☐
	第3章 現代の民主政治と社会		☐ ☐ ☐
	1 現代の民主政治		☐ ☐ ☐
	2 国の政治の仕組み		☐ ☐ ☐
	3 地方自治と私たち		☐ ☐ ☐
	第4章 私たちの暮らしと経済		☐ ☐ ☐
	1 消費生活と市場社会		☐ ☐ ☐
	2 生産と労働		☐ ☐ ☐
	3 市場経済の仕組みと金融		☐ ☐ ☐
	4 財政と国民の福祉		☐ ☐ ☐
3 学 期	第4章 私たちの暮らしと経済	・個人の生活や産業の発展に伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解する。 ・環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性を理解する。 ・国際政治は、国際協調の観点にもとづいて国家間の対立の克服を試みるものであることを理解する。 ・すべての国家の主権が相互に尊重されなければならないことを理解する。 ・グローバル化が進む国際社会の中で、国家間の格差が進み、「人間の安全保障」という考え方が広がってきた現状をとらえ、国際的な協力関係の必要性が強まってきたことを理解する。 ・世代間の公平、地域間の公平、環境の保全と回復、公正で平和な社会などが持続可能な社会形成への基礎となることを理解する。	☐ ☐ ☐
	5 これからの経済と社会		☐ ☐ ☐
	第5章 地球社会と私たち		☐ ☐ ☐
	1 国際社会の仕組み		☐ ☐ ☐
	2 さまざまな国際問題		☐ ☐ ☐
	3 これからの地球社会と日本		☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	日頃から新聞やニュースを見ておいてください。授業はプリントを中心に授業を進めていきます。ノートに貼って整理してください。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。副教材の問題集を週末の宿題として出します。
------	---

評価方法	①知識・技能...学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。年表や歴史、地図など様々な資料を収集し、必要な情報を適切に選択し活用することができる。 ②思考・判断・表現...教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③主体的に学習に取り組む態度...学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	数学	科 目	数学	学 年	1	類 型	
単位数	5	教科書	数研出版 これからの数学1 数研出版 これからの数学2				
副教材	数研出版 STEP 演習 中学数学1 数研出版 STEP 演習 中学数学2						

学習目標	年間を通して、以下の能力を養う。 ○正・負の数や文字式の計算、一次方程式・不等式の解き方を理解しそれらを用いる能力 ○比例・反比例、一次関数の理解を深め、関数関係を見だし活用する能力 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を見だし活用する能力 ○目的に応じて資料を整理・活用する能力 ○平面図形や空間図形を論理的に考察し表現できる能力 ○将来の八代高校生として、大学入試に対応できる能力（→応用問題で扱う）
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	第1章 正の数と負の数 1 正の数と負の数 2 加法と減法 3 乗法と除法 4 いろいろな計算	○正の数と負の数の必要性和意味について、それらが使われている具体的な場面に結び付けて理解している。 ○既習の計算をもとにして、減法の計算方法を考察し、数直線を使って説明することができる。 ○加法と減法を統一的にみて、減法を加法の計算と捉えようとしている。 ○四則の混じった式の計算順序を理解し、その計算ができる。 ○数の集合とその集合における四則計算の可能性について捉え直すことができる。 ○正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 文字と式 1 文字と式 2 文字式の計算 3 文字式の利用	○文字を用いることの必要性和意味を理解している。 ○規則的に変化する事象を、文字式を使って一般的に表すことができる。 ○1次式の加法、減法、乗法、除法の計算方法を理解し、その計算ができる。 ○1次式の加法と減法について、数の計算と関連付けて考え、説明することができる。 ○文字式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 1次方程式 1 1次方程式 2 1次方程式の利用	○方程式の必要性和意味を理解している。 ○式変形の過程を考察し、方程式を解く一般的な手順をまとめることができる。 ○方程式を利用して具体的な場面における問題を解決する手順を理解している。 ○方程式を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第4章 比例と反比例 1 比例 2 反比例 3 比例と反比例の利用	○関数の意味を理解している。 ○比例の表、式、グラフを相互に関連付けてみることができる。 ○反比例の関係を式に表すことができる。 ○反比例の表、式、グラフを相互に関連付けてみることができる。 ○比例、反比例を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期			☐ ☐ ☐

2 学 期	第5章 平面図形 1 平面図形 2 作図 3 円	○平面上の点や直線の位置関係をとらえることができる。 ○移動前と移動後の2つの図形の関係に着目して図形の性質や関係を見だし、説明することができる。 ○垂直二等分線、角の二等分線、垂線を作図する方法を理解している。 ○円の対称性に着目して円の接線を作図する方法を見出すことができる。 ○作図の方法について、図形の対称性をもとにして考えようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第6章 空間図形 1 空間図形 2 立体の体積と表面積	○多面体、角錐、円錐の意味やそれらの特徴を理解している。 ○空間における直線や平面の位置関係について考察し、説明することができる。 ○球の体積や表面積を求めることができる。 ○現実の世界の具体物を数学的に捉え考察しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第7章 データの活用 1 データの整理とその活用 2 確率	○ヒストグラムの必要性和意味を理解している。 ○多数の観察や多数回の試行の結果をもとにして、事象の起こりやすさの傾向を読み取り、説明することができる。 ○多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を利用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第1章 式の計算 1 式の計算 2 文字式の利用	○単項式と多項式の意味を理解している。 ○簡単な多項式の加法や減法や、多項式に数をかける計算について、数の計算や1年で学習した文字式の計算と関連付けて考察し、説明することができる。 ○文字式で一般的に表現し説明することの必要性和意味を理解している。 ○式の計算について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 連立方程式 1 連立方程式 2 連立方程式の利用	○2元1次方程式とその解の意味を理解している。 ○1元1次方程式と関連付けて、連立方程式の解き方について考察し、説明することができる。 ○連立方程式を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 1次関数 1 1次関数 2 1次関数と方程式 3 1次関数の利用	○1次関数の意味を理解している。 ○2元1次方程式を、関数関係を表した式とみることができる。 ○1次関数の特徴を表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けて考察し、説明することができる。 ○1次関数を利用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	まず予習として、練習や例題を解いて授業に臨みます。授業では、内容を理解することを重視し、ただ板書を写すことにならないよう気をつけます。具体的には、予習で理解が十分でなかったところや別解などをノートの余白部分に書きます。復習として毎日担当者から課される日々の演習を行います。また、週末には課題を解きます。加えて、定期考査以外にも小テストを行って、到達状況を確認します。
評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3つ観点について評価を行う。中間テスト・期末テスト・実力テスト・単元テスト・提出物・出席状況・日頃の授業態度などで、総合的に評価を行う。

教科	数学	科目	数学	学年	2	類型	
単位数	4	教科書	数研出版 改訂版 中学校 数学2 数研出版 改訂版 中学校 数学3				
副教材	数研出版 体系数学2 数研出版 体系問題集 数研出版 体系数学2 数研出版 体系問題集	代数編 数学2 代数編 標準 幾何編 数学2 幾何編 標準					

学習目標	年間を通して、以下の能力を養う。 ○平面図形の性質について活動を通して理解を深め、性質を論理的に考察し表現する能力 ○不確定な事象を調べ、確率や標本調査について理解し用いる能力 ○式の展開や、因数分解について理解し用いる能力 ○二次方程式を理解し活用する能力 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を見いだし活用する能力 ○将来の八代高校生として、大学入試に対応できる能力（→応用問題で扱う）
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	【体系数学2 代数編】 第1章 式の計算 1 多項式の計算 2 因数分解 3 式の計算の利用	○多項式と単項式の乗除について理解する。 ○乗法公式を用いて、一次式の積の展開ができるようにする。 ○数の素因数分解の意味と多項式を因数分解することの意味を理解し、因数分解ができるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第2章 平方根 1 平方根 2 根号を含む式の計算 3 有理数と無理数 4 近似値と有効数字	○新しい数の必要性和意味を理解し、概念をひろめる。 ○数の平方根の意味を理解し、電卓などを用いてその近似値を求めることができるようにする。 ○数の平方根の中には、限りなく続く小数でしか表せない数があることを知り、理解を深める。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第3章 2次方程式 1 2次方程式の解き方 2 2次方程式の応用	○2次方程式の必要性和その解の意味を理解する。 ○因数分解や解の公式を用いて2次方程式を解くことができるようにする。 ○2次方程式を問題解決に利用することができるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第4章 関数 $y=ax^2$ 1 関数 $y=ax^2$ 2 関数 $y=ax^2$ のグラフ 3 関数 $y=ax^2$ の値の変化 4 関数 $y=ax^2$ の応用 5 いろいろな関数	○自然現象の中には、関数 $y=ax^2$ としてとらえられるものがあることを知る。 ○関数 $y=ax^2$ について、そのグラフの特徴を理解する。 ○関数 $y=ax^2$ のとる値の変化の割合を調べ、1次関数との違いを明らかにする。 ○身のまわりに、関数 $y=ax^2$ と関わりの深い事象があることを知る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	第5章 データの活用 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位範囲	○統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できる。 ○身近な統計の代表値について定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲の定義やその意味を理解し、データの散らばりを比較することができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	第6章 確率と標本調査 1 場合の数 2 事柄の起こりやすさと確率 3 確率の計算	○表や樹形図、計算を利用して、起こりうる場合の数を求めることができるようにする。 ○起こりうる場合や起こらない確率を求めることができるようにする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

	4 標本調査	○標本調査の必要性和意味を理解し、簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向をとらえ説明することができるようにする。	□ □ □
	【体系数学2 幾何編】 第1章 図形と相似		
	1 相似な図形	○図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解する。	□ □ □
	2 三角形の相似条件	○三角形の相似条件を知り、それを使って図形の性質を証明することができるようにする。	□ □ □
	3 平行線と線分の比	○平行線と線分の比についての性質を見だし、これを活用することができるようにする。	□ □ □
	4 中点連結定理	○中点連結定理を理解する。	□ □ □
	5 相似な図形の面積比、体積比	○相似な図形の比から、面積比、体積比を求めることができるようにする。	□ □ □
	6 相似の利用		
3 学 期	第2章 線分の比と計量		
	1 三角形の重心	○三角形の重心に関する性質を理解する。	□ □ □
	2 線分比と面積比	○定理を利用して線分や面積比を求めることができるようにする。	□ □ □
	3 チェバの定理	○チェバの定理、メネラウスの定理を理解する。	□ □ □
	4 メネラウスの定理		
	第3章 円		
	1 外心と垂心	○三角形の外心と垂心に関する性質を理解する。	□ □ □
	2 円周角	○定理を利用して円周角に関する角度を求めることができるようにする。	□ □ □
	3 円に内接する四角形	○円に内接する四角形に関する性質を理解する。	□ □ □
	4 円の接線	○円の接線に関する性質を理解する。	□ □ □
	5 接線と弦のつくる角	○定理を利用して、円に関する角度を求めることができるようにする。	□ □ □
	6 方べきの定理	○方べきの定理の意味を理解する。	□ □ □
	7 2つの円	○2つの円に関する性質を理解する。	□ □ □
	第4章 三平方の定理		
	1 三平方の定理	○直角三角形の3辺の関係を具体的な観察や操作を通して調べ、三平方の定理を見いだす。	□ □ □
	2 三平方の定理と平面図形	○三平方の定理が証明できることを理解する。	□ □ □
	3 三平方の定理と空間図形	○三平方の定理の意味を理解する。 ○三平方の定理をいろいろな場面で活用しようとする態度を育て、活用できる。	□ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	まず予習として、練習や例題を解いて授業に臨みます。授業では、内容を理解することを重視し、ただ板書を写すことにならないよう気をつけます。具体的には、予習で理解が十分でなかったところや別解などをノートの余白部分に書きます。復習として毎日担当者から課される日々の演習を行います。また、週末には課題を解きます。加えて、定期考査以外にも小テストを行って、到達状況を確認します。
------	---

評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3つ観点について評価を行う。中間テスト・期末テスト・実力テスト・単元テスト・提出物・出席状況・日頃の授業態度などで、総合的に評価を行う。
------	---

教 科	数学	科 目	数学	学 年	3	類 型	
単位数	5	教科書	啓林館 数学Ⅰ 改訂版				
副教材	数研出版 体系数学2 幾何編 数研出版 体系問題集 数学2 幾何編 標準 啓林館 問題集 アドバンス 数学Ⅰ＋A						

学習目標	年間を通して、以下の能力を養う。 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を見だし活用する能力 ○三角比について理解し、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力 ○母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力 ○既習の数学を基にして、数や図形の性質を進んで見だし活用する能力 ○将来の八代高校生として、大学入試に対応できる能力（→応用問題で扱う）
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	第4章 三平方の定理 1 三平方の定理 2 三平方の定理と平面図形 3 三平方の定理と空間図形 【高等学校 数学I】 第1章 数と式 1 式の計算 2 実数 3 1次不等式 4 集合と命題	○直角三角形の3辺の関係を具体的な観察や操作を通して調べ、三平方の定理を見いだす。 ○三平方の定理が証明できることを理解する。 ○三平方の定理の意味を理解する。 ○三平方の定理をいろいろな場面で活用しようとする態度を育て、活用できる。 ○演算の基本的な性質を理解する。 ○実数の性質を知り、その計算に習熟する。 ○数を拡張することの良さを知り、積極的に活用する。 ○数量の範囲を求めることの良さを知り、積極的に活用する。 ○絶対値の処理に慣れ、絶対値を含む方程式や不等式において、積極的に活用する。 ○集合の表し方、部分集合、補集合などについて基本的な考え方を理解する。 ○命題とその真偽について学び、命題の真理集合や反例の考え方について理解する。 ○逆・裏・対偶とそれらの相互関係について理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	第2章 2次関数 1 2次関数のグラフ 2 2次関数の値の変化 3 2次方程式と2次不等式 第3章 図形と計量 1 三角比 2 三角形への応用	○2次関数についての理解を深め、それを活用できるようにする。 ○2次関数とそのグラフに関心を持つとともに、関数を用いることの良さがわかる。 ○表、式、グラフを関連づけながら変化の様子をとらえることができる。 ○関数を用いて数量の変化を表現し、値の変化を調べることができる。 ○2次関数とそのグラフ及び値の変化について理解し、基本的な知識を身につける。 ○2次関数を利用して、2次不等式の解き方とその解の意味について理解する。 ○2次不等式を問題解決に利用することができるようにする。 ○図形の計量の基本的な性質について理解し、考え方の有用性を認識し、具体的に考察できる。 ○三角形と計量に関心を持ちその良さがわかるとともに、具体的な事象に活用できる。 ○三角比の考え方をを用いて、図形の計量を行う過程を	□ □

		考察することができる。 ○具体的な事象の数量の関係を、三角比などを用いて表現し、計量ができる。 ○三角比や正弦・余弦定理の意味について理解し、基本的な知識を身につける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	第4章 データの分析	○統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できる。 ○身近な統計の代表値について定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ○範囲の定義やその意味を理解し、データの散らばりを比較することができる。 ○分散や標準偏差、相関係数の定義とその意味を理解し、それらを求めることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	まず予習として、練習や例題を解いて授業に臨みます。授業では、内容を理解することを重視し、ただ板書を写すことにならないよう気をつけます。具体的には、予習で理解が十分でなかったところや別解などをノートの余白部分に書きます。復習として毎日担当者から課される日々の演習を行います。また、週末には課題を解きます。加えて、定期考査以外にも小テストを行って、到達状況を確認します。
------	---

評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 の3つ観点について評価を行う。中間テスト・期末テスト・実力テスト・単元テスト・提出物・出席状況・日頃の授業態度などで、総合的に評価を行う。
------	---

教 科	理科	科 目	理科	学 年	1	類 型	
単位数	3 単位	教科書	未来へひろがるサイエンス 1（啓林館）				
副教材	県版 理科問題集（暁） 理科ノート（新学社） 観点別評価プリント（新学社） 理科資料集（暁） ウイニング						

学習目標	自然の事物・現象に進んでかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	自然の中にあふれる生命 【生命】 いろいろな生物とその共通点 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 植物の特徴と分類	1 花のつくりの観察を行い、その観察記録に基づいて、花のつくりの基本的な特徴を見いだすとともに、それらを花の働きと関連付けてとらえることができる。 2 葉、根のつくりの観察を行い、基本的な特徴を見だし、特徴に基づいて分類できることを見いだすとともに、植物の種類を知る方法を身に付ける。 3 種子をつくらない植物にはコケ植物とシダ植物があり、胞子で増えることを理解する。 4 セキツイ動物の5つのグループは、子の残し方、呼吸のしかた、体の表面のようす、体温の保ち方などの特徴によって分けられることを理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2章 動物の特徴と分類 力だめし、学んだ後にリトライ！ 動物園・水族館の展示方法	5 無セキツイ動物とセキツイ動物との体の特徴の相違点、共通点を見出し、無セキツイ動物もセキツイ動物と同じように生活に必要な期間を持っていることを理解する。	☐ ☐ ☐
	【物質】 身のまわりの物質 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 いろいろな物質とその性質	1 身の周りの物質の性質を様々な方法で調べ、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを見いだすとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付ける。 2 気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を見いだすとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身につける。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	2章 いろいろな気体とその性質		☐ ☐ ☐
	3章 水溶液の性質	3 物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだすこと。 4 水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を	☐ ☐ ☐
2 学 期			

	4章 物質のすがたとその変化 力だめし、学んだ後にリトライ！ 古くて新しいガラスの世界 【エネルギー】 光・音・力による現象 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 光による現象 2章 音による現象 3章 力による現象 力だめし、学んだ後にリトライ！ 自動運転を支える光と音の科学	溶解度と関連付けてとらえる。 5 物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだす。 1 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだすこと。 2 凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の位置及び像の大きさの関係を見いだすこと。 3 音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだす。 4 物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだすとともに、力は大きさと向きによって表されることを知る。 5 実験を通して、力がつり合うときの条件や力の合成と分解についてその規則性を理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学 期	【地球】 活きている地球 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 身近な大地 2章 ゆれる大地 3章 火をふく大地 4章 語る大地 力だめし、学んだ後にリトライ！ 昔の地球を読みとく時空の旅へ	1 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けてとらえ、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。 2 火山の形、活動の様子を及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえる。 3 野外観察などを行い、観察記録を基に、地層の成り方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだすとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定すること。	□ □ □ □ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業は観察や実験を中心に授業を進めていきます。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。授業終了後、副教材の問題集を使ってしっかり復習しておきましょう。
------	---

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度...学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。提出物を忘れずに提出することができている。 ②思考・判断・表現...教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③知識・技能...教科書に書かれた実験手順を基に実験を行うことができている。正しく実験器具を使用することができている。学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	理科	科 目	理科	学 年	2	類 型	
単位数	4 単位	教科書	未来へひろがるサイエンス2（啓林館）				
副教材	新中学問題集（教育出版） 理科 W プリント（新学社）理科 理科ノート（新学社） 理科資料集（暁） ウイニング						

学習目標	科学に対する認識を高め、自らより深く調べようとする基礎を身につける。 自然の事物・事象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・事象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	【物質】 化学変化と原子・分子 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 さまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量 力だめし、学んだ後にリトライ！ 科学で宝石を生み出す	1 化学変化についての観察、実験を行い、実験技能を習得するとともに、レポートを作成することで、観察・実験の結果を分析して解釈し、わかりやすく表現することができる。 2 物質の変化やその量的な関係について理解させ、原子や分子のモデルと関連付けてみる見方や考え方ができる。 3 物質を原子の記号や化学式で表し、化学変化を化学反応式で表すことができるようになる。 4 分解や化合、酸化や還元などの基本的な化学変化の学習を通じて、化学変化の不思議さや面白さを実感する。 5 化学変化において質量が保存されること、互いに反応する物質の質量の間には一定の関係があることなどを見いだすことができる。 6 化学変化によって熱が出入りすることを理解する。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学期	【生命】 動物の体のつくりとはたらき 1章 生物の体をつくるものの 2章 植物の体のつくりとはたらき 3章 動物の体のつくりとはたらき	1 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだす。 2 消化や呼吸及び血液循環について、動物の体のつくりと働きとを関連付けて理解するとともに、その働きによって、動物の生命活動が維持していることを	□ □ □ □ □ □

3 学 期	4章 動物の行動のしくみ 力だめし、学んだ後にリトライ！ 細胞内のリサイクル機能 【エネルギー】 電流とその利用 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 電流の性質 2章 電流の正体	3 刺激に対する反応について、動物の体のつくりと働きとを関連付けて理解するとともに、その働きによって、動物の生命活動が維持していることを実感する。 1 回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだすことができる。 2 実験・観察を通して、電圧と電流の関係をグラフ化し、その規則性を見いだすとともに、金属線には電気抵抗があることを理解する。 3 電流から熱や光などが取り出せることを実感し、電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだす。 4 帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流は関係があることを見いだす。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	3章 電流と磁界 力だめし、学んだ後にリトライ！ 【地球】 地球の大気と天気の変化 単元導入、学ぶ前にトライ！ 1章 地球を取り巻く大気の様子 2章 大気中の水の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季 力だめし、学んだ後にリトライ！ 海洋と日本の天気の関係	5 実験・観察を通して、電流のまわりに磁界ができることや磁界中のコイルに電流を流すと力が働くことを見いだす。 6 実験・観察を通して、コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることを見いだすとともに、直流と交流の違いを理解する。 1 天気の変化が主として大気中の水の状態変化と大気の動きによって引き起こされていることを理解する。 2 身近な気象現象の観察や観測を継続的に行うことを通して、天気の変化の規則性を見いだすことができる。 3 日本の気象の特徴を日本周辺の気団や大気の動き、海洋の影響とを関連付けた見方や考え方ができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業は観察や実験を中心に授業を進めていきます。板書を写すだけでなくノートに自分の考えや他人の考えなどを書き留めてください。授業終了後、副教材の問題集を使ってしっかり復習しておきましょう。
------	---

評価方法	①主体的に学習を行う態度...学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾けたりしている。提出物を忘れずに提出することができている。 ②思考・判断・表現...教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現することができる。 ③知識・技能...教科書に書かれた実験手順を基に実験を行うことができている。正しく実験器具を使用することができている。学習した内容の基礎的・基本的な事項を身に付けることができる。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	理科	科 目	理科	学 年	3	類 型	
単位数	4 単位	教科書	未来へひろがるサイエンス3（啓林館）				
副教材	理科 W プリント 評価と確認（新学社）ウイニング3年（好学出版）ハイクラス徹底問題集中3理科（文理）3年間の総整理問題集（正進社）						

学習目標	自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力の基礎と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。 学んだことを互いに関連付け、自然を総合的に考え、発展的に考える姿勢を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	【単元1】 生命の連続性 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 生物のふえ方と成長 2章 遺伝の規則性と遺伝子 3章 生物の種類の多様性と進化	1 体細胞分裂の観察を通して、その過程を確かめ、細胞の分裂を生物の成長と関連付けてとらえる。 2 無性生殖と有性生殖の動物や植物について、それぞれの特徴を理解する。 3 遺伝子交配実験の結果に基づいて、親の形質が子に伝わる時の規則性を見だし、遺伝現象について理解するとともに、生命の連続性について認識を深める。さらに分離の法則を理解する。 4 遺伝子やDNAの研究結果が、日常生活や社会にかかわる様々な分野で、利用されるようになってきていることについて、文献やコンピュータ、ネットワークなどを活用して、理解を深める。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	【単元4】 運動とエネルギー 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 力の合成と分解 2章 物体の運動 3章 仕事とエネルギー 4章 多様なエネルギーとその移り変わり 5章 エネルギー資源とその利用 力だめし，学んだ後にリトライ！ エネルギーをみんなに そしてクリーンに	1 実験を通して、力がつり合うときの条件や力の合成と分解についてその規則性を理解する。 2 力がはたらかない運動では物体は等速直線運動をし、力がはたらく運動では物体の速さが変わることを実験結果のグラフから分析することができる。 3 物体のもつエネルギーの量は、物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解する。 4 実験を通して、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わり、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解する。 5 仕事の概念を身につけ、エネルギーの移りわりと保存について実感し、日常生活や社会と関連付けた運動とエネルギーの見方や考え方ができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	【単元3】 単元導入，学ぶ前にトライ！ 1章 水溶液とイオン 2章 電池とイオン	1 水溶液の電気分解についての観察，実験を行い、実験技能を習得するとともに、レポートを作成することで、観察・実験の結果を分析して解釈し、わかりやすく表現することができる。	□ □ □

	3章 酸・アルカリと塩 力だめし、学んだ後にリ トライ！ 化学電池と未来	2 化学変化についての観察、実験を通して、水溶液 の電気伝導性や酸性やアルカリ性の特徴、中和反 応、化学電池のしくみなどについて理解し、これら の事物・現象をイオンのモデルと関連付けて考え、 説明できる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	【単元2】 宇宙の中の地球 単元導入，学ぶ前にトラ イ！ 1章 地球から宇宙へ 2章 太陽と恒星の動き 3章 月と金星の動きと見 え方 力だめし、学んだ後にリト ライ！ 大きさをこえてさぐる太陽 系の歴史 学習のまとめ	1 身近な天体の観察を通して、地球の運動について考 察し、太陽や惑星の特徴及び月の運動と見え方を理解 するとともに、太陽系や恒星など宇宙についての認識 を深める。 2 天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球 の自転と関連付けて説明できる。 3 星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察 を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関 連付けてとらえ、天体の位置関係や運動について相対 的に理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	【単元5】 単元導入，学ぶ前にトラ イ！ 1章 自然界のつり合い 2章 さまざまな物質の利 用と人間 3章 科学技術の発展 4章 人間と環境 5章 持続可能な社会をめ ざして 力だめし、学んだ後にリト ライ！ かけがえのない地球ととも に	1 身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然 界のつり合いに影響していることを理解し、自然環 境を保全することの重要性を認識する。 2 自然と人間のかかわり方について認識を深め、自 然環境の保全と科学技術の利用の在り方について 科学的に考えることができる。 3 エネルギー資源の利用や科学技術の発展と人間生活 とのかかわりについて認識を深め、自然環境の 保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察 し、持続可能な社会をつくることが重要である ことを認識する。 4 科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が 人間の生活を豊かで便利にしてきたことを認識する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業は観察や実験を中心に授業を進めていきます。板書を写すだけでなくノートに自分の考え や他人の考えなどを書き留めてください。授業終了後、副教材の問題集を使ってしっかり復習 しておきましょう。
------	---

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度...学習内容を理解しようと積極的に学習に取り組んでいる。話 し合いなどで積極的に意見を出したり他人の話に耳を傾け たりしている。提出物を忘れずに提出することができている。 ②思考・判断・表現...教科書の記述やグラフ、図など様々な資料を適切に収集し、活用して事 象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、適切に表現する ことができる。 ③知識・技能...教科書に書かれた実験手順を基に実験を行うことができている。正しく実 験器具を使用することができている。学習した内容の基礎的・基本的な事 項を身に付けることができる。
------	--

	以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
--	---

教 科	音楽	科 目	音楽	学 年	1	類 型	
単位数	1. 3単位	教科書	中学生の音楽 1 中学生の器楽（教育芸術社）				
副教材	県版 音楽ノート						

学習目標	(1) 曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。 (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。
------	---

○歌唱 ◇器楽 ◎鑑賞 ●創作

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	校歌の歌詞を学校の歴史とともに理解しよう ◎校歌「道」 ◇◎ヴァイオリンとギターで「きたきら星」を弾いてみよう	・作詞者、作曲者、歌詞の内容について理解する ・楽譜に書かれている音名、音符、休符、記号の名前を理解し、歌唱表現にどのように生かすかを考える ・楽器の構造を理解する ・正しい姿勢と構え方で演奏する ・楽器の響きを味わいながら、表現を工夫して演奏する	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	音楽の特徴に注目しながら情景を思い浮かべて聴こう ◎「春 ー第1楽章ー」 パートの役割を感じ取って合唱しよう ○「課題曲」「自由曲」	・作曲者が情景をどのように表現しているのかに注目しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・合奏と独奏の対比や、曲の構成に気を付けながら聴く。 ・主旋律と副旋律の役割や、旋律の重なり方の違いに気を付けて、表現を工夫して歌う。 ・混声合唱の響きを生かしながら、互いの声や伴奏をよく聴いて歌う。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
3 学 期	情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう ◎◎「赤とんぼ」 「リズムゲーム」を活用してリズムフレーズをつくろう ●リズムチャレンジ	・旋律の動きや強弱の変化がどのように曲想と関わっているかを感じ取り、表現を工夫して歌う ・言葉の美しい響きを生かす発音で歌う ・思い浮かんだ情景を演技で表現する ・選んだリズムを反復させたり変化させて、4小節のリズムフレーズをつくる	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	表現領域(「歌唱」,「器楽」,「創作」の三分野), 鑑賞領域で学習を進めていきます。実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というもののまで学習していきます。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間になしてください。
------	---

評価方法	【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点について評価します。日頃の授業や実技テスト、ノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価します。
------	---

教 科	音楽	科 目	音楽	学 年	2	類 型	
単位数	1 単位	教科書	中学生の音楽 2・3 上 中学生の器楽（教育芸術社）				
副教材	県版 音楽ノート						

学習目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
------	---

○歌唱 ◇器楽 ◎鑑賞 ●創作

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	ヴァイオリンとギターで 「きらきら星」を弾いてみよう ◇◎「きらきら星」 Let's Create! ●リズムアンサンブル	・楽器の構造を理解する ・正しい姿勢・正しい運指で弾く ・楽器の響きを味わいながら、表現を工夫して演奏する ・4分の4拍子で2小節のリズムをつくる ・つくったリズムを重ねて速度や強弱をつけて演奏する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	響きの美しさを味わおう ◎「フーガ ト短調」曲の構成 を理解して、曲想を味わおう 仲間とともに表情豊かに合唱しよう ○「校歌」 ○「合唱コンクール自由曲」 舞台芸術の特徴を理解して、 その魅力を味わおう ◎オペラ・バレエ・ミュージカル	・パイプオルガンの響きから、声部の多声的な重なり方や多声音楽のおもしろさを味わう ・仲間といっしょに校歌「道」の混声二部合唱を作り上げる ・歌詞の内容や曲想への関心とパートの役割と全体の響きとのかかわりを理解して曲にふさわしい表現を工夫して表情豊かに合唱する ・舞台芸術の特徴を、文化・歴史や他の芸術とのかかわり、曲想などから理解し、よさや美しさを根拠をもって批評する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	◎「交響曲第5番 運命」 卒業式に向けて ○大切なもの	・ベートーベンについて ・オーケストラについて ・曲の構成と曲想とのかかわりを理解し、そのよさや美しさを根拠をもって批評する ・曲想や魅力を生かして、卒業式に向け表現を工夫しながら合唱する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	表現領域（「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野）、鑑賞領域で学習を進めていきます。実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というもので学習していきます。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間になしてください。
------	--

評価方法	【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】【鑑賞の能力】の4つの観点について評価します。日頃の授業や実技テスト、ノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価します。
------	--

教 科	音楽	科 目	音楽	学 年	3	類 型	
単位数	1 単位	教科書	中学生の音楽 2・3 下 中学生の器楽（教育芸術社）				
副教材	県版 音楽ノート						

学習目標	表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
------	---

○歌唱 ◇器楽 ◎鑑賞 ●創作

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	詞の内容を理解して、強弱を生かした表現を工夫しよう ○「花」 ヴァイオリンを弾いてみよう ◇◎「きらきら星」 ギターを弾いてみよう ◇◎「カントリーロード」他	・歌詞の情景を思い浮かべながら歌詞を朗読する。 ・曲想を感じ取り、どのように歌うか表現意図を持つ。 ・楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につける ・楽器の響きを味わって、音色を生かした表現方法の工夫 ・楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を身につける ・楽器の響きを味わって、音色を生かした表現方法の工夫 ・派生音の音名（英・日・伊語）とコードネーム	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学期	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう ○「校歌」 ○「合唱コンクール自由曲」 曲のよさをプレゼンテーションしよう ◎バレエ音楽「ボレロ」 ◎交響曲 ルールを守って音楽を楽しもう	・八中学生としての自覚と誇りを持ち、歴史と伝統に触れながら、校歌「道」の合唱を仲間と作り上げる ・パートの役割と全体の響きとのかかわりを理解し、曲にふさわしい表現を仲間と工夫して表情豊かに合唱する ・音楽の特徴を、文化・歴史や他の芸術とのかかわりや曲想などから理解する ・楽曲のよさや美しさを味わいながら聴き、根拠をもって批評する ・音楽を楽しむためのルール（著作権）の理解	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	Let's Create! ●リズムアンサンブル 卒業式に向けて ○卒業式の歌	・構成を生かしたリズムアンサンブルの創作 ・曲想や魅力を生かして、卒業式に向け表現を工夫しながら合唱する	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	表現領域（「歌唱」、「器楽」、「創作」の三分野）、鑑賞領域で学習を進めていきます。実技を伴う授業です。真剣にそして積極的に取り組みましょう。また授業を通して音楽に限らず、文化というもので学習していきます。自分の財産となる素晴らしい作品に出会う時間にしてください。
------	---

評価方法	【音楽への関心・意欲・態度】【音楽表現の創意工夫】【音楽表現の技能】【鑑賞の能力】の4つの観点について評価します。日頃の授業や実技テスト、ノート、課題などの学習状況及び小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価します。
------	--

教 科	美術	科 目	美術	学 年	1	類 型	全
単位数	1. 3単位	教科書	美術1（光村図書）				
副教材	美術資料						

学習目標	○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	美術ってなんだろう？ 美術で学ぶこと 色や光の特徴を知ろう 文字で楽しく伝える	・作品の鑑賞を通して、作者の個性をつかみ、表現されている内容を素直に味わう。 ・色彩のよさや美しさに気づき、その性質や感情への影響について理解し、効果を工夫して用いる。色相環や色の性質について基礎的な事項を学習する ・伝えたい内容や使う場面、場所などを考え、目的に応じて形や色を工夫し、楽しい文字、美しい文字をデザインする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	生活をいろどる文様 美術鑑賞を楽しむ手がかり	・自然物や日用品から発想を広げ、形や色を工夫して文様を作る。 ・日本や諸外国の文様を鑑賞し、表現工夫や文様に込められた願い、生活との関わりなどを感じ取る。 ・美術作品の見方について考える。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	見つめ、感じ取り、描く 受け継がれる日本の美	・身近なものを見つめ、感じ取った特徴をどのように表したいか考えて、材料や用具を工夫して描く。 ・身近なものを描いた作品を鑑賞し、様々な表現の工夫を感じ取る。 ・風神雷神をあらわした作品を比較して鑑賞し、それぞれの良さや違いについて話し合う。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切にし、計画的に制作を進め見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	--

評価方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点 より評価を行っていきます。題材によっては、2つの観点や3つの観点からのみ評価を行う場合もあります。
------	---

令和3年度 八代中学校シラバス

教 科	美術	科 目	美術	学 年	2	類 型	全
単位数	1 単位	教科書	美術 2 ・ 3 （光村図書）				
副教材	美術資料						

学習目標	○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	わかりやすく情報を伝える レオナルドとその時代	・グラフィックデザインの魅力や意義を考え、生活の中で役立つピクトグラムを構想し制作する。 ・作品を鑑賞し、情報をわかりやすく伝えるための工夫を感じ取る。 ・作品にみられる意図や、工夫について探究し、作者の心情や感じ取ったことについて話し合う。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	北斎からゴッホへ	・ものの見方や感じ方を深め、新鮮な視点で対象の形や色彩の特徴をとらえて自分らしく表現するなどしてスケッチ・立体制作に親しむ。 ・日本の美術が西洋の美術に与えた影響について考える。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	色と形の挑戦 心でとらえたイメージ	・感情や季節、音などのイメージを自分独自の発想や方法で表現する。 ・作品を鑑賞し、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	---

評価方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点 より評価を行っていきます。題材によっては、1つの観点や、2つの観点からのみ評価を行う場合があります。
------	--

教 科	美術	科 目	美術	学 年	3	類 型	
単位数	1 単位	教科書	美術 2 ・ 3 下（日本文教出版）				
副教材	美術資料						

学習目標	○主体的に美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高める。 ○対象を深く見つめる力、感性や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し創造的に表現する能力を伸ばす。 ○自然、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高める。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	日本の世界文化遺産 形と色の構成	・世界遺産について関心を持つ。 ・モチーフをスケッチして美しい形を見つける。 ・単純化と平面化を工夫して色面構成する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	ゲルニカは語る	・ゲルニカを鑑賞し、作品が作られた背景をもとに、作者の表現の意図や工夫を感じ取る。	☐ ☐ ☐
2 学 期	イメージを形で表現しよう	・塊から感じる存在感や、形から感じる動きなどを考え、表現の構想を練る。 ・文字の形を工夫して表す。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	刻まれた祈り	・仏像にも様々な種類があり、時代や作者によって特徴が異なることに関心をもつ。	☐ ☐ ☐
3 学 期	私との対話	・自分の姿を見つめて考えたことをもとに、今の自分の気持ちや将来の夢を表すなど、表現の構想を練る。 ・表現方法を工夫して、今の自分を表す。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
	文化 受けつぎ、作る	・美術や美術作品と時代や社会との関わりに着目しながら鑑賞する。	☐ ☐ ☐

学習方法	○作品制作では、習得した知識や技能を使い効果的に生かしてください。また、自分の純粋な発想を大切に、計画的に制作を進め見通しを持って取り組んでください。 ○鑑賞では、作者の思いや意図・工夫点を感じ取り、さまざまな価値観に気づき得る寛容さを養いましょう。さらには、自らの作品作りへと生かし、発展させていきましょう。
------	---

評価方法	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 の3つの観点 より評価を行っていきます。題材によっては、1つの観点や、2つの観点からのみ評価を行う場合があります。
------	--

令和3年度 八代中学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	保健体育	学 年	1	類 型	
単位数	3	教科書	大修館書店				
副教材	ステップアップ中学体育 中学校保健体育ノート						

学習目標	健康や運動に関心を持ち、主体的に運動に親しむことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、基礎体力の向上及びたくましい精神を培う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価		
			A	B	C
1 学 期	体づくり運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行うことができる。集団行動やラジオ体操第2ができる。	☐	☐	☐
	陸上競技(短距離・リレー・幅跳び)	・クラウチングスタートからのスムーズな加速走や、タイミングを合わせたバトンパスでリレーを楽しむことができる。記録の向上や競争の楽しさ、喜びを味わいながら、基本的な動きを身につける。	☐	☐	☐
	保健(調和のとれた生活)	・健康な生活と疾病の予防について理解を深めることができる。	☐	☐	☐
	水泳	・手と足の動作や呼吸のタイミング、バランスをとって泳ぐことができる。	☐	☐	☐
	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐	☐	☐
2 学 期	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐	☐	☐
	球技(ゴール型) サッカー	・基本技能となるボール操作やボールを持たない時の動作を身につけ、簡単なルールでゲームを楽しむ。	☐	☐	☐
	器械運動(マット運動)	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかにできるようになり、技を組み合わせで発表する。	☐	☐	☐
	陸上競技(長距離走)	・自己の能力に応じて長い距離をより速くはしることができる。	☐	☐	☐
	保健(心身の機能の発達と心の健康)	心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることができる。	☐	☐	☐
3 学 期	球技(ゴール型:バスケットボール)	・基本技能となるボール操作やボールを持たない時の動作を身につけ、簡単なルールでゲームを楽しむ。	☐	☐	☐
	体育理論	・運動やスポーツの必要性や楽しさ、かかわり方や学び方を理解する。	☐	☐	☐
	ダンス(現代的なリズムのダンス)	・リズムに乗って全身ではずんで踊る。	☐	☐	☐
	・創作ダンス)	・テーマから表したいイメージをとらえ、適した動きで踊る。	☐	☐	☐
	保健(心身の機能の発達と心の健康)	・心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとと	☐	☐	☐

	健康)	に、ストレスへの対処をすることができる。	
--	-----	----------------------	--

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	★実技の時間は、チャイムですぐに始めることができるように集合場所で整列して待ちましょう。 ★挨拶や返事は大きな声で行い、きびきびとした集団行動を心がけましょう。 ★学習シートはその日のうちに書いて提出し、各自めあてをもって授業に参加しましょう。 ★自分の体力に応じた課題を持ち、日頃から生活の中に運動を取り入れましょう。また、運動・スポーツに関する情報を収集し、興味・関心を高めましょう。 ★各種目の特性や技術、ルール等はステップアップ中学体育で調べ、予習して授業に臨みましょう。
------	---

評価方法	【知識・技能】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③学年末テスト 【思考力・判断力・表現力等】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③期末テスト 【主体的に学習に取り組む態度】①活動状況観察 ②学習シート
------	--

教 科	保健体育	科 目	保健体育	学 年	2	類 型	
単位数	3	教科書	大修館書店				
副教材	ステップアップ中学体育 中学校保健体育ノート						

学習目標	健康や運動に関心を持ち、主体的に運動に親しむことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、基礎体力の向上及びたくましい精神を培う。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	達成度評価 A B C
1 学 期	体づくり運動	・自己の体に関心を持ち、自己の体力に応じた課題をもって運動を行い体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。	☐ ☐ ☐
	陸上競技 (ハードル・走り幅跳び)	・記録の向上や競争の楽しさ、喜びを味わいながら、基本的な動き、効率の良い動きを身につける。	☐ ☐ ☐
	器械運動(跳び箱運動)	・開脚や閉脚とびなどの切り返し系や台上前転やスプリング系などの回転系の基本的な技を跳ぶことができる。	☐ ☐ ☐
	保健	・健康の保持増進のために、心身の健康に対する環境の影響について理解することができる	☐ ☐ ☐
	水泳	・足のけりを中心として進み、十分な伸びをとりながら長い距離を泳ぐことができる。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	球技(ネット型)バレーボール	・パスやスパイク、サーブなど基本技能となるボール操作やボールを持たない時の動作を身につけ、簡単なルールでラリーやゲームを楽しむ。	☐ ☐ ☐
	武道(柔道)	・礼法を身につけ、相手の動きに応じた基本動作から基本となる技を用いて、打ったり受けたりする攻防を展開できる	☐ ☐ ☐
	保健	・傷害の発生要因について理解し、障害の防止及び応急処置について理解する。	☐ ☐ ☐
	陸上競技	・自己の能力に応じて長い距離をより速くはしることができる。	☐ ☐ ☐
3 学 期	球技(ベースボール型)	・基本的なバット操作やボール操作、走塁による攻防ができるとともに、簡単なゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	保健	・傷害の発生要因について理解し、障害の防止及び応急処置について理解する。	☐ ☐ ☐
	体育理論	・運動やスポーツの効果や安全な行い方について理解することができる。	☐ ☐ ☐

※A:十分に満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

学習方法	★実技の時間は、チャイムですぐに始めることができるように集合場所で整列して待ちましょう。 ★挨拶や返事は大きな声で行い、きびきびとした集団行動を心がけましょう。 ★学習シートはその日のうちに書いて提出し、各自めあてをもって授業に参加しましょう。 ★自分の体力に応じた課題を持ち、日頃から生活の中に運動を取り入れましょう。また、運動・スポーツに関する情報を収集し、興味・関心を高めましょう。 ★各種目の特性や技術、ルール等はステップアップ中学体育で調べ、予習して授業に臨みましょう。
------	---

評価方法	【知識・技能】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③学年末テスト 【思考力・判断力・表現力等】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③期末テスト 【主体的に学習に取り組む態度】①活動状況観察 ②学習シート
------	--

教 科	保健体育	科 目	保健体育	学 年	3	類 型	
単位数	3	教科書	大修館書店				
副教材	ステップアップ中学体育 中学校保健体育ノート						

学 習 目 標	健康や運動に関心を持ち、主体的に運動に親しむことができるようにするとともに、知識や技能を身につけ、基礎体力の向上及びたくましい精神を培う。
---------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	達成度評価 A B C
1 学 期	体づくり運動	・自己の体に関心を持ち自己の体力に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりすることができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ゴール型)	・選択した種目において、基本的なボール操作やボールを持たない時の動き・技術を習得し、集団的技能や戦術を活かしたゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ネット型)	・選択した種目において、各種ストロークやサービスなどのボール操作を身につけ、ラリーやゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	保健	・健康を保持増進し、疾病を予防するための適切な対処について理解することができる。	☐ ☐ ☐
	水泳(クロール・平泳ぎ)	・足のけりを中心として進み、十分な伸びをとりながら長い距離を泳ぐことができる。	☐ ☐ ☐
	体づくり運動	・リズムやタイミングを合わせて、組体操やダンスができる。	☐ ☐ ☐
2 学 期	選択球技(ネット型)	・選択した種目において、基本的なボール操作やボールを持たない時の動き・技術を習得し、集団的技能や戦術を活かしたゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	選択球技(ゴール型)	・選択した種目において、基本的なボール操作やボールを持たない時の動き・技術を習得し、集団的技能や戦術を活かしたゲームを楽しむことができる。	☐ ☐ ☐
	器械運動と陸上競技の選択	・回転系や巧技系の基本的な技をなめらかにできるようになり、仲間と一緒に技を組み合わせる。発表する。	☐ ☐ ☐
	保健	・記録の向上や競争の楽しさを味わいながら競技会を楽しむ。	☐ ☐ ☐
	長距離走	・テーマから表したいイメージをとらえ、適した動きで踊る。	☐ ☐ ☐
		・感染症の原因や感染経路、感染予防の3つの対策について理解することができる。	☐ ☐ ☐

3 学 期	球技（ベースボール型）もし	・基本的なボール操作を身につけ、ゲームを楽しむ。	☐ ☐ ☐
	くはダンス	・テーマに応じた動きやBGMを編集し、発表会を楽しむ。	☐ ☐ ☐
	保健	・健康になる方法と病気の防ぎ方や行動を学ぶ。	☐ ☐ ☐
	体育理論	・スポーツが文化として世界中に広まり、生活の中で重要な役割を果たしていることを理解する。	☐ ☐ ☐

※A:十分に満足できる B:概ね満足できる C:努力を要する

学習方法	★実技の時間は、チャイムですぐに始めることができるように集合場所で整列して待ちましょう。 ★挨拶や返事は大きな声で行い、きびきびとした集団行動を心がけましょう。 ★学習シートはその日のうちに書いて提出し、各自めあてをもって授業に参加しましょう。 ★自分の体力に応じた課題を持ち、日頃から生活の中に運動を取り入れましょう。また、運動・スポーツに関する情報を収集し、興味・関心を高めましょう。 ★各種目の特性や技術、ルール等はステップアップ中学体育で調べ、予習して授業に臨みましょう。
------	---

評価方法	【知識・技能】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③学年末テスト 【思考力・判断力・表現力等】①活動状況観察 ②学習シート・レポート ③期末テスト 【主体的に学習に取り組む態度】①活動状況観察 ②学習シート
------	--

令和3年度 八代中学校シラバス

教 科	技術・家庭	科 目	技術	学 年	1	類 型	
単位数	2 単位	教科書	新編新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート（新学社）						

学習目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度評価 A B C
1 学 期	4編 情報に関する技術 第1章 コンピュータと情報通信ネットワーク 第2章 デジタル作品の設計・制作 第3章 プログラムによる計測・制御	1 コンピュータの構成と基本的な情報処理の仕組みを知る。 2 情報通信ネットワークにおける基本的な情報利用の仕組みを知る。 3 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えることができる。 4 メディアの特徴と利用方法を知り、製作品の設計ができる。 5 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。 6 コンピュータを利用した計測・制御の基本的な仕組みを知る。 7 情報処理の手順を考え、簡単なプログラムが制作できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	第4章 情報に関する技術の評価・活用 3編 生物育成に関する技術 第1章 生物を育てる技術の特徴 ①生物を育てる技術について知ろう ②植物を育てる技術を知ろう	8 情報に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。 1 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知る。 2 生物の育成に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	10月より家庭科を学習する。		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	副教材の技術ノートで要点をおさえながら授業を行っていきます。パソコンを使って課題に取り組み、提出してもらうので、提出を忘れないようにしてください。
------	---

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度…よりよい社会を築くために、情報に関する技術や生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。 ②思考・判断・表現…よりよい社会を築くために、情報に関する技術や生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。 ③知識・技能…コンピュータにおける基本的な情報処理の仕組みと情報通信ネットワークにおける安全な情報利用の利用についての知識を身に付け、情報に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。ワードやエクセルなどのコンピュータの基本操作を行うことができるか。 以上3つの観点について、日頃の授業や技術ノート、課題などの学習状況及び定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	---

教 科	技術・家庭	科 目	技術	学 年	2	類 型	
単位数	2 単位	教科書	新編新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート（新学社）						

学習目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	10月まで家庭科を学習する。		
2 学 期	3編 生物育成に関する技術 第1章 生物を育てる技術の特徴 ③動物を育てる技術を知ろう ④水産生物を育てる技術を知ろう 第2章 生物を育てるための計画と管理 ①生物の育成計画を立てよう ②植物や環境を観察して育成しよう 第3章 生物育成に関する技術の評価・活用 ①生物育成に関する技術を未来に生かそう 学習のまとめ	1 生物の育成に適する条件と生物の育成環境を管理する方法を知る。 2 生物の育成に関する技術の適切な評価・活用について考えることができる。 3 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	1編 材料と加工に関する技術 第1章 材料と加工法 ①材料と加工に関する技術について知ろう ②材料の特徴を知ろう ③材料に適した加工法を知ろう ④製作品を丈夫にする方法を知ろう	1 技術が生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割について考えることができる。 2 材料の特徴と利用方法を知る。 3 材料に適した加工法を知り、工具や機器を安全に使用しようできる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

第2章 製作品の設計・制作 ①生活に役立つ製作品を構想しよう ②製作品の構想をまとめよう 製図 ③作業手順を考えて制作しよう 基礎技術 ④完成した製作品を評価しよう 第3章 材料と加工に関する技術の評価・活用 ①材料と加工に関する技術を未来に生かそう 学習のまとめ	4 使用目的や使用条件に即した機能と構造について考えることができる。 5 構想の表示方法を知り、製作図を書くことができる。 6 部品加工、組立て及び仕上げができること。	□ □ □ □ □ □ □ □ □
--	---	--

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	副教材の技術ノートで要点をおさえながら授業を行っていきます。木の板を使って作品を制作してもらうので提出を忘れないようにしてください。
------	--

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度...よりよい社会を築くために、材料と加工に関する技術や生物育成に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 生物育成に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとしている。 ②思考・判断・表現...よりよい社会を築くために、生物育成に関する技術を適切に評価し活用している。 ③知識・技能...工具や機器を安全に使用できる。材料の特徴と利用方法及び材料に適した加工法についての知識を身に付け、材料と加工に関する技術と社会や環境とのかわりについて理解している。 以上3つの観点について、日頃の授業や技術ノート、課題などの学習状況及び定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	技術・家庭	科 目	技術	学 年	3	類 型	
単位数	1 単位	教科書	新編新しい技術・家庭 技術分野（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート（新学社）						

学習目標	ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。
------	--

[illegible]

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	副教材の技術ノートで要点をおさえながら授業を行っていきます。はんだごてを使って作品に取り組み、提出してもらうので、忘れないようにしてください。
------	---

評価方法	①主体的に学習に取り組む態度...よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。 ②思考・判断・表現...よりよい社会を築くために、エネルギー変換に関する技術を適切に評価し活用している。 ③知識・技能...エネルギー変換方法や力の伝達の仕組みについての知識を身に付け、エネルギー変換に関する技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。機器の保守点検と事故防止ができる。 以上3つの観点について、日頃の授業や技術ノート、課題などの学習状況及び定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。
------	--

教 科	技術・家庭	科 目	家庭	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野						

学習目標	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	前半は 技術分野を学習します。10月から家庭分野です。		
2 学期	家庭分野のガイダンス 1編 私たちの食生活 1章 食生活と栄養 2章 献立作りと食品の選択 3章 調理と文化 ○りんごの皮むきテスト	・小学校の学びの振り返りと中学3年間で学ぶことの見通しを持つ。 ・自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。 ・栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について理解する。 ・食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知る。 ・食品の品質を見分け、用途に応じて選択しながら、中学生の1日分の献立を考える。 ・安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができるようになる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学期	○和食弁当（魚と野菜の調理） ○洋食弁当（肉と野菜の調理） 2編 私たちの衣生活と住生活 2章 住生活と自立 ○生活の課題と実践 ○学んだことを発表しよう	・基礎的な日常食の調理ができるようになる。 ・家庭の住空間について考え、住居の基本的な機能について知る。 ・家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を考える。 ・住生活の学習に関心を持ち、課題をもって住生活について工夫し、計画を立てて実践する。 ・発表の機会を持つことで自薦の成果や課題を明確にする。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにしましょう。 各課題は基本的には学校内で行う。課題の提出については期限を守りましょう。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ協力して進めましょう。
------	--

評価方法	評価は次のような観点で、様々な角度から総合的に判断します。 ○知識・技能 ・作品（製作に着実に取り組み、最後まで丁寧に仕上げたか） ・実技テスト（課題を確実に達成できたか、上手に正しく道具が扱えるか） ・発表（聞いている人にわかりやすい発表ができたか） ・ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○思考・判断・表現 ・レポート・計画（課題に着実に取り組み、工夫したレポート・計画になっているか） ・発表（自分で考え、自分なりに考えた発表をしているか） ・作品（自分なりに工夫した、生活に役立つ作品を制作することができたか） ・ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○主体的に学習に取り組む態度 ・授業態度（落ち着いた態度で参加し、よく聞き、よく発表しているか） ・宿題、提出物（期限までに提出できたか）、ノート・プリント（確実に記入されているか） ・自己評価、総合評価（正しく評価できたか）
------	--

教 科	技術・家庭	科 目	家庭	学 年	2	類 型	
単位数	2	教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）				
副教材	熊本県版 技術・家庭学習ノート 家庭分野						

学習目標	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価		
			A	B	C
1 学 期	2 編 私たちの衣生活と住生活	・衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができる。	☐	☐	☐
	1 章 衣生活と自立	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができる。 (シャツの取り扱い表示を見てアイロンかけをします。)	☐	☐	☐
	○手入れの基礎技能	・布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができる。	☐	☐	☐
	2 章 生活を豊かにするために	・製作に必要な時間等の見通しを持ち、目的に応じた縫い方や製作方法について理解する。	☐	☐	☐
2 学 期	○製作の基礎技能 (小物)	・手縫いやミシン縫いなどの基礎的・基本的な知識と技術を活用し、生活を豊かにするものを製作する。	☐	☐	☐
	1 編 私たちの食生活	・地域または季節の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解する。	☐	☐	☐
	3 章 調理と文化	・安全と衛生に留意し、食品や調理用具などの適切な管理ができるようになる。	☐	☐	☐
	○りんごの皮むきテスト	・基礎的な日常食の調理ができるようになる。	☐	☐	☐
	○和食弁当 (魚と野菜の調理)	・食生活に関心を持ち、課題を持って日常食または地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できる。	☐	☐	☐
3 学 期	○洋食弁当 (肉と野菜の調理)				
	○地域の食材を生かした調理をしよう。				
	10月から 技術分野を学習します。				

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにしましょう。 各課題は基本的には学校内で行う。課題の提出については期限を守りましょう。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全にかつ協力して進めましょう。
------	--

評価方法	評価は次のような観点で、様々な角度から総合的に判断します。 ○知識・技能 ・作品（製作に着実に取り組み、最後まで丁寧に仕上げたか） ・実技テスト（課題を確実に達成できたか、上手に正しく道具が扱えるか） ・発表（聞いている人にわかりやすい発表ができたか） ・ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○思考・判断・表現 ・レポート・計画（課題に着実に取り組み、工夫したレポート・計画になっているか） ・発表（自分で考え、自分なりに考えた発表をしているか） ・作品（自分なりに工夫した、生活に役立つ作品を制作することができたか） ・ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○主体的に学習に取り組む態度 ・授業態度（落ち着いた態度で参加し、よく聞き、よく発表しているか） ・宿題、提出物（期限までに提出できたか）、ノート・プリント（確実に記入されているか） ・自己評価、総合評価（正しく評価できたか）
------	--

令和3年度 八代中学校シラバス

教 科	技術・家庭	科 目	家庭	学 年	3	類 型	
単位数	1	教科書	新編 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して（東京書籍）技術・				
副教材	技術・家庭 家庭分野 準拠ノート（教育図書）						

学習目標	衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	3編 私たちの成長と 家族・地域 1章 家族・家庭と地域 2章 幼児の生活と家族 3章 これからの私と家 族 ○幼児のおもちゃを手作りし てみよう	- 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて理解する。 - これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をより良くする方法を考える。 - 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解する。 - 幼児の遊び道具の製作活動を通して、幼児の遊びの意義について理解する。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
2 学 期	4編 私たちの消費生活 1章 私たちの消費生活 2章 環境に配慮した消費生 活 ○幼稚園訪問	- 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。 - 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。 - 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できる。 - 幼児と触れ合う活動を通して、幼児への関心を高め、関わり方を工夫できる。	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
3 学 期	10月から 技術分野を学習します。		

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努めるようにしましょう。 各課題は基本的には学校内で行う。課題の提出については期限を守りましょう。 実習に際しては、沈黙と集中をもって取り組み、安全に、かつ協力して進めましょう。
------	--

評価方法	評価は次のような観点で、様々な角度から総合的に判断します。 ○知識・技能 - 作品（製作に着実に取り組み、最後まで丁寧に仕上げたか） - 実技テスト（課題を確実に達成できたか、上手に正しく道具が扱えるか） - 発表（聞いている人にわかりやすい発表ができたか） - ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） - ワークシート（課題を解決することができたか） ○思考・判断・表現
------	---

	・レポート・計画（課題に着実に取り組み、工夫したレポート・計画になっているか） ・発表（自分で考え、自分なりに考えた発表をしているか） ・作品（自分なりに工夫した、生活に役立つ作品を制作することができたか） ・ペーパーテスト（身についておくべき知識が着実に定着しているか） ・ワークシート（課題を解決することができたか） ○主体的に学習に取り組む態度 ・授業態度（落ち着いた態度で参加し、よく聞き、よく発表しているか） ・宿題、提出物（期限までに提出できたか）、ノート・プリント（確実に記入されているか） ・自己評価、総合評価（正しく評価できたか）
--	---

教 科	外国語	科 目	英語	学 年	1	類 型	
単位数	4	教科書	NEW HORIZON English Course1				
副教材	中学必修テキスト中学1年英語， 中学実力練成αスタンダード英語1年， トーク・アンド・トーク・ライト Book1 ， Active Phonics						

学習目標	1. はっきりと話されれば, 日常的な話題について, 必要な情報を聞き取ることができる。 2. 日常的な話題について, 簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。 3. 関心のある事柄について, 簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 4. 関心のある事柄や体験したことなどについて, 簡単な語句や文を用いて話すことができる。 5. 関心のある事柄や体験したことなどについて, 簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	Unit 0 Welcome to Junior High School	・小学校で習ったアルファベットやあいさつ等の英語表現の復習	☐ ☐ ☐
	Unit 1 New School, New Friends	・ Be 動詞/一般動詞/助動詞 can (肯定、疑問、否定) の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 2 Our New Teacher	・ This [That, He, She] is, 疑問詞 what や who, how の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 3 Club Activities	・ 疑問詞 where や when, I want to, How many ...? の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 4 Friends in New Zealand	・ 命令文、What 名詞～? の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 5 A Japanese Summer Festival	・ 前置詞、like/enjoy/be good at ~ing、動詞の過去形の習得。	☐ ☐ ☐
	Stage Activity 1 “All about Me” Poster	・ 自分が好きなことについて、情報を整理してつながりのある文章でポスターを書く。	☐ ☐ ☐
2 学 期	Unit 6 A Speech about My Brother	・ 三人称単数現在形 (肯定、疑問、否定) の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 7 Foreign Artists in Japan	・ 代名詞、疑問詞 which、whose の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 8 A Surprise Party	・ 現在進行形、感嘆文の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 9 Think Globally, Act Locally	・ 不定詞、look + 形容詞の習得。	☐ ☐ ☐
	Stage Activity 2 My Hero	・ 好きな有名人がどのような人かを伝えるために、その人についての質問をして答えたり、紹介する文章を書いたりする。	☐ ☐ ☐
	Let's Read 1 Let's Climb Mt. Fuji	・ 図や表などの情報をもとに、まとまりのある文章の概要を読み取る。	☐ ☐ ☐
3 学 期	Unit 10 Winter Vacation	・ 一般動詞の過去形(肯定、疑問、否定)の習得	☐ ☐ ☐
	Unit 11 This Year's Memories	・ Be 動詞の過去形(肯定、疑問、否定) There is/are ~、過去進行形の習得	☐ ☐ ☐
	Stage Activity 3 My Favorite Event This Year	・ 思い出に残った学校行事について、情報を整理したり感想を考えたりしながら原稿を作成し、発表のポイントを意識して話す。	☐ ☐ ☐
	Let's Read 2		☐ ☐ ☐

	City Lights	・物語を読んで、場面の变化や登場人物の心情などを理解する。	
--	-------------	-------------------------------	--

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業では、言語の理解・習熟・応用のバランスを考えて单元ごとに技能を高めます。復習として中学必修テキスト、中学実力練成αスタンダード等を用いて既習事項の徹底を図ります。また、小テストや单元テスト等を実施してスモールステップを実践します。
------	---

評価方法	①「知識・技能」外国語の音声や語い、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけている。 ②「思考力・判断力・表現力等」コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ③「主体的に学習に取り組む態度」外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及びレッスンごとの小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。パフォーマンステストでは、英語での表現能力を評価する。
------	---

教 科	外国語	科 目	英語	学 年	2	類 型	
単位数	4	教科書	NEW HORIZON English Course 2				
副教材	中学必修テキスト中学2年英語， 中学実力練成αスタンダード英語2年， トーク・アンド・トーク・ライト Book2， 速読英単語中学版						

学習目標	・はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を聞き取ることができる。 ・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の概要を捉えることができる。 ・日常的な話題について、事実や自分の考え、気持などを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、まとまりのある内容を話したり、書いたりすることができる。
------	--

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学 期	・ Unit 0 My Spring Vacation ・ Unit 1 A Trip to Singapore ・ Unit 2 Food Travels around the World ・ Unit 3 My Future Job ・ Stage Activity 1 A Message to Myself in the Future ・ Let's Read 1 History of Clocks	・ 過去形、過去進行形を用いた文の復習。 ・ There is/are . . . の文の習得。 ・ be going to、助動詞 will を用いた文の習得。 ・ 5文型の構造、意味、用法を理解する。 ・ 接続詞(when, if, that, because)を用いた文の習得。 ・ 10年後の自分へのメッセージを伝えるために、お互いの好きなこと、向いていると思う仕事を理由とともに伝えあって整理し、自分にあうと思う仕事について書くことができる。 ・ 文章の大まかな流れを時間軸に沿ってまとめるために、時計が発展してきた歴史について書かれた文章の概要を捉えることができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学 期	・ Unit 4 Homestay in the United States ・ Unit 5 Universal Design ・ Unit 6 Research Your Topic ・ Stage Activity 2 Research and Presentation ・ Let's Read 2 A Glass of Milk	・ have to、助動詞 must、動名詞を用いた文の習得。 ・ 〈疑問詞+to〉、〈主語+be +形容詞+that〉を用いた文の習得。 ・ 比較表現を用いた文の習得。 ・ 聞き手のことを考えて分かりやすく伝えるために、クラスで人気のあるものについて調査し、その結果をまとめて発表することができる。 ・ 気持ちを込めて音読することができるように、物語の場面や登場人物の心情の変化を読み取ることができる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

3 学 期	・ Unit 7 World Heritage Sites	・ 受け身を用いた文の習得。	☐ ☐ ☐
	・ Stage Activity 3 My Favorite Place in Our Town	・ 自分の街のお勧めの場所について、その場所の特徴や よい点を整理して伝えたり、相手からの質問に答えたり できるようになる。	☐ ☐ ☐
	・ Let's Read 3 Pictures and Our Beautiful Planet	・ 文章の大まかな流れを時系列に沿ってまとめたり、そ こからわかる環境問題について考えを伝えあったりす るために、ある人物の生涯について書かれた文章の概 要を捉える事ができる。	☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	予習をして授業の精度を高めます。授業では、言語の理解・習熟・応用のバランスを考えて単元ごとに技能を高めます。復習として既習事項の徹底を図ります。また、小テスト／単元テストを実施してスモールステップを実践します。
------	---

評価方法	①「知識・技能」外国語の音声や語い、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 ②「思考力・判断力・表現力等」コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ③「主体的に学習に取り組む態度」外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及びレッスンごと的小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。パフォーマンステストでは、英語での表現能力を評価する。
------	---

教 科	外国語	科 目	英語	学 年	3	類 型	
単位数	4	教科書	NEW HORIZON English Course3				
副教材	中学必修テキスト中学 3 年英語, 中学実力練成 α スタンダード英語 3 年, トーク・アンド・トーク・ライト Book3, 速読英単語入門編						

学習目標	・はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点をとらえることができる。 ・社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章の要点をとらえることができる。 ・社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて述べ合ったり、話したり、書いたりすることができる。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達自己評価 A B C
1 学期	・ Unit 0 Three Interesting Facts about Languages ・ Unit 1 Sports for Everyone ・ Unit 2 Haiku in English ・ Unit 3 Animals on the Red List ・ Stage Activity1 My Activity Report ・ Let's Read1 A Mother's Lullaby	・ 受動態の復習 ・ 現在完了形の経験用法（肯定文, 疑問文, 否定文）の習得 ・ 現在完了形の完了用法と継続用法（肯定文, 疑問文, 否定文）の習得。 ・ <It is …(for 人)to … >, <want 人 to>, <let(help) 人 動詞の原形>の習得 ・ 活動報告の構成を理解し、自分の経験やほかの人へのメッセージを即興で話したり、まとまりのある文章を書いて発表できるようになる。 ・ 場面や人物の心情を表す表現の理解をもとに、物語の流れに沿って場面の变化や登場人物の心情を読み取ることができるようになる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
2 学期	・ Unit 4 Be Prepared and Work Together ・ Unit 5 A Legacy for Peace ・ Stage Activity2 Discover Japan ・ Unit 6 Beyond Borders ・ Stage Activity3 Let's Have a Mini Debate	・ 間接疑問文と SV00(what 節)の文の習得。 ・ 名詞を修飾する文と関係代名詞 who, that, which(主格・目的格)の習得。 ・ 日本や郷土の文化について書かれた文章を参考にしたりやり取りをしたりをして紹介文を書くことができるようになる。 ・ 仮定法と主語を説明する関係代名詞の習得。 ・ ある論題について賛成・反対の立場を決めて、主張とその理由を明確にしながら、意見を伝え合うことができるようになる。	□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □

3 学 期	・ Let's Read 2 Power Your Future	・ 長所と短所を比較して述べる文章の構成の理解をもとに、エネルギー問題について書かれた文章の内容を読み取ることができるようになる。	☐ ☐ ☐
	・ Let's Read 3 A Graduation Gift from Steve Jobs	・ メッセージを伝える文章の構成の理解をもとに、生き方について書かれたスピーチの原稿を読み取ることができる。	☐ ☐ ☐

※A：十分に満足できる B：概ね満足できる C：努力を要する

学習方法	授業では、言語の理解・習熟・応用のバランスを考えて单元ごとに技能を高めます。復習として中学必修テキスト、中学実力練成αスタンダード等を用いて既習事項の徹底を図ります。また、小テストや单元テストを実施してスモールステップを実践します。
------	--

評価方法	①「知識・技能」外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。 ②「思考力・判断力・表現力」コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝えあったりすることができる。 ③「主体的に学習に取り組む態度」外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうしている。 以上3つの観点について、日頃の授業やノート、課題などの学習状況及びレッスンごとの小テストや定期考査の得点などをもとにして総合的に評価する。パフォーマンステストでは、英語での表現能力を評価する。
------	---